

368) 君への愛こそ僕の誇りだ

こんなにも辛い日が来るのなら  
どうして君に出逢ったのだろう  
あの日から僕は君のことばかりを考えているよ  
だからなおのこと君に出逢うため  
長い<sup>みちのり</sup>道程をたったひとりで  
生きて来たようなそんな気持ちになってしまうのさ

うまくゆかない僕の人生で  
君だけがきっと僕の鏡なんだ  
君の生きざまをひとつの手本に生きてゆくように  
神様が僕に用意してくれた  
たったひとつの祝福なんだと  
僕はそう思い君を見つめて生きているのさ

君の人生と僕の人生を  
きつといつの日か重ね合わせて  
この地球上のどこか片隅で生きてゆきたい  
僕の願いなどそ知らぬふりで  
夕焼けの陽が沈んで溶けてく  
まるで僕のこと置き去りにした世の中のよう

でもありったけの言葉をさがして  
君への思いを僕は語るんだ  
君の生き方を君の心を君のすべてを  
本気で愛した男は絶対  
この世の中で僕しかいないと  
そのことだけを誇りに思っ生きてゆく